

1 単元名 つづけよう② たのしいな、ことばあそび

2 単元の目標

身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 <知識及び技能> (1) 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くことができる。 <知識及び技能> (3) イ

3 研究主題との関わり

研究主題

自ら進んで学びに向かう児童の育成  
～確かな学力を育む授業づくり・環境づくり～

仮説1 自分の思いや考えをもって課題に取り組むことで、確かな学力を育むことができるであろう。

【手立て①】 課題設定

・授業の導入で教師がつくった言葉遊びのモデルを見せ、単元のゴールを具体的に示す。単元全体の学習の見通しをもつことで、「言葉を見つけない」という思いをもたせて学習に取り組ませる。

仮説2 学習環境を整え、全校で実践すれば、確かな学力が身に付くであろう。

【手立て①】 教室掲示作り

・言葉コーナー(言葉の木)を設置し、言葉と意味をつなげ語彙を豊かにできる工夫をする。児童は、その掲示から学習を振り返ったり、新しい語彙を学ぼうという意欲をもったりすることができるようにする。

【手立て②】 スキルアップタイムで言葉遊びの活用

・児童が作成した言葉遊び問題に挑戦させることで、学習の意欲をより高める。

4 児童の実態と本単元の意図

4、5月が臨時休校期間となり、1年生はようやく待ちに待った小学校生活をスタートすることができた。休校中は、各家庭で学校から出された課題に取り組んできた。国語の学習では、教科書の音読と平仮名のワークを利用して平仮名を書く練習を行ってきた。物語文「はなのみち」の音読では、言葉のまとまりを意識して音読をすることができる児童が多かった。複数の平仮名を組み合わせる言葉を考えて際には、「みせ」を反対にすると「せみ」となることや、「りか」という教科名や「みる」という動詞にいたるまで多くの言葉を見つけることができた。新しい言葉が出てきた際には、その意味を児童に問いかけ、その語のもつ音や様子を別の言葉で表現させ、言葉のもつ意味やイメージを捉えることを意識して取り組ませている。授業や生活の中で触れた言葉の意味をよく考えさせ、児童の豊かな言語感覚を育てていきたい。平仮名の復習を行う際には、常時マスクをつけていたため、意識することが難しい口形や、学校での指導が不十分であった平仮名の形の特徴についても指導していきたい。

本単元は、平仮名の学習の復習として、たくさん並んだ平仮名の中から、言葉を探し出すことに取り組ませる。この活動をとおして、言葉を見つける楽しさを感じ、意欲的に言葉の量を増やし、児童一人一人の語彙をより豊かにさせていきたい。探し出した言葉を丁寧に書くことで、平仮名の書き方の復習ができ、語の

まとまりを意識させることもできるだろう。また、児童同士の交流学习が難しい現状であっても、児童がオリジナルで問題を作り、それを友達に解いてもらうという間接的な交流を行う。友達の問題から、新たな言葉を知る児童もいるだろう。見つけた言葉を整理し、音節と文字の関係や濁音・清音・促音・拗音などを復習することもできる。言葉の整理をすることで、語句相互の意味関係などの語彙の質を深められるよう指導していきたい。このような活動をとおして、普段の生活の中でも言葉やその意味についてより深く考えるようになり、語彙を増やしていけると考える。そして、文字から語句、語句から文へと、より豊かな言葉で自分の考えや思いが表現できる児童を育てていきたい。

5 本单元における言語活動

たくさん並んだ平仮名の中から言葉を探す。言葉探し問題を作る。

6 単元の評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。((1)オ) ②長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。((3)イ)	①進んで、身近なことを表す語句の量を増し、問題に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画 (全2時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1 (本時)	学習の見通しをもち、言葉探し問題を解く。	・平仮名の形の特徴(復習) ・言葉遊びの学習 ・言葉を書く学習	○言葉を見つけられない児童への手立てとして、言葉を絵や写真で表しているカードを用意する。 【知識・技能①】 <u>ワークシート・ノート</u> ・身近なことを表す語句を正確に見つけ出しているか確認する。
2	言葉探し問題をつくり、友達の問題を解き合う。	・言葉探し問題の作成	【知識・技能②】 <u>ワークシート</u> ・これまで学んだ言葉で問題を作ろうとしているか確認する。 【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>発表や活動の様子</u> ・これまでの学習を生かし、言葉を見つけ問題を作ろうとしているか確認する。

8 本時の学習指導 (1/2)

(1) 目 標 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。

<知識及び技能> (3)イ

(2) 評価規準 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙の豊かさに気付いている。【知識・技能】

(3) 展 開

学 習 活 動	学 習 内 容	指導上の留意点・評価◆研修における重点項目	時間
1 平仮名の復習を行う  2 イメージを文字に変え、簡単な言葉探しクイズをする  3 本時の課題を確認する	○平仮名の復習  ○学習の進め方	○平仮名の形の指導を補うように、復習していく。 ○イメージと言葉をつなげていく。 ○数文字から3×3のひらがなの集まりへ徐々に変化させ、言葉を見つけさせる。本時の活動を理解させる。 ○見つけられた言葉を「言葉の木」に貼ることを伝え、活動に目的をもたせる。 ◆課題提示の工夫により、主体的に学びに向かう姿が見られたか。	5  5  2
ばらばらのひらがなをつなげるとどうなるかな。			
4 言葉遊びに取り組む  5 見つけた文字を発表する	○言葉探し	○見つけた言葉に印をつけさせる。  ○友達が見つけた言葉を知り、自分の見つけた言葉と比べさせる。 ○発表の際には、言葉の意味を問い、イメージと言葉がつながるように工夫する。	20
<評価規準> 【知識・技能①】 <評価方法> 教師による行動観察、発表、ワークシート ・かくれている言葉を複数見つけられている児童をB評価とする。 <「努力を要する」状況(c)への手立て> ・一つの平仮名に注目させ、たて・よこ・ななめで声に出して読ませ、言葉を見つける手がかりとさせる。 ・かくれている言葉の絵や写真を見せ、言葉で見つけられるように助言する。			8
6 見つけた言葉を書く	○言葉の意味	○言葉の句切りを意識させて、丁寧に書かせる。 ○いくつかの言葉を「言葉の木」に貼る。 ◆「言葉の木」によって、意欲的に学習に取り組む姿が見られたか。確かな学力につながる環境となっていたか。	
7 本時のまとめをする	ひらがなをつなげると『ことば』になる。		5
8 学習の振り返りをする		○児童は、一人一人ワークシートにマークを記入し、学習を振り返る。	

